

県P連だより

No.26

第56回日本PTA全国研究大会「かがわ讃岐路大会」報告

副会長 池田 淳二

(福山 一ツ橋中学校)

第五十六回 日本PTA全国研究大会が、八月二十三・二十四日の両日、「心豊かで元気な人づくり」を旨指す香川県において開催されました。三十四年ぶり二回目の開催となる今回は『UDONの国さぬき ことねばりのある子に育てよう』をスローガンに、日本一面積の小さい香川県から、今の子どもたちの教育に何が求められ、何をすべきなのかと云うことを、じっくりと、そして力強く発信していきたいという実行委員会の思いが形となって表わされる大会となりました。

広島県PTA連合会からも、平成二十三年、第五十九回大会開催を見据えて総勢百名の参加者で学ばせて頂きました。県内各地よりご参加頂



いた皆様には、途中「空の青と海の青」その間に点在する緑の島々が見せる、風光明媚な与島にご参集いただいたのちに、各分科会へと散会してご参加いただきました。時節は、ゲリラ豪雨が猛威を振るう真っ直中ではありましたが、雨に打たれることなくそれぞれ分科会滞りなく終え、夜は「塩之江温泉」にて七十名を超える大懇親会を開くことが出来ました。

全体会が行なわれた二十四日は、深夜の雨を忘れさせてくれるほどさわやかな朝を迎え、まさに「生々流転」という言葉がピッタリとくる全体会日和となりました。全体会場となった高松市総合体育館周辺には、送迎車両以外の乗り入れを規制したこともあり、ゆったりとした会場運営に導かれて、大きな停滞もなく入場することが出来ました。会場に入るとすでにアトラクション「白羽獅子」が始まっており、幻想な雰囲気迎え、今年度の壮日本PTA全国協議会会長となられた、曾我邦彦大会長のご挨拶は、赤田前会長とはまた違ったリーダーシップを発揮され、お話しされた、「IT社会が子どもたちにもたらす悪影響と、犯罪に誘い込む大人社会のモラル低下」への対応も、肅々と進められることを伺わせるご挨拶でした。

記念講演は、大相撲横綱朝青龍関

題で一躍注目を浴びることとなられた、脚本家 内館牧子氏による「角界の新弟子における規範意識」でした。折しも三人の力士が関わる薬物騒動により規範意識はより重要視されるものとなり、各界における指導のあり方が問われる中で、なぜ角界においてこの様な問題が生まれるのか、やっではならないことの指導、伝統文化の継承等のお話しをいただきました。また、確かに最近規範意識が失われていると思う教育現場において、規範意識が欠けてしまっている顕著な現れとしては、給食費の不払いがあること。先生と生徒は同じ人間であるが、知識を教える側と教えてもらう側の立場の違いに敬意表現を欠いてはならないこと。或いは、本業の脚本を書く上において生じる、様々なクレーム処理を題材に、なぜ規範意識が失われることとなったか。勘違いの平等論、個の尊重、全てをフラットにしようとしたことに無理があったことなどを通して、人として、親としてのあり方を考えさせてくださる講演でした。

運営に関わる気付きと、社会が抱える規範意識の欠如について多くを学ぶことの出来た大会でしたが、何より有意義だったことは、百名という多くの皆様と一つの場を共有出来たことです。この縁を大切に、さらに広島県PTA連合会活動を活性化していきたいものです。

第56回日本PTA全国研究大会「かがわ讃岐路大会」分科会

第1分科会

組織運営
理事 岩崎 雅吉（竹原 竹原中学校）



バスを降りたらそこは香川讃岐路大会第1分科会会場でした。

ピンクのおそろいのTシャツがさわやかな笑顔と挨拶で私達を迎えてくれました。

会場はほぼ満席です。皆熱心に田尾和俊先生の「讃岐うどんブームのプ

ロモーション」と題しての講演を聞き、つづいて「咲き続け、三世代の花」と題して実戦発表「汗と金を出す、口に出さないのがイエロー隊の信条」と取り組みの発表が有りました、中でもイエロー隊の活動には感動しました。

ねばり強く腰のある強い子どもに育てようと「家庭」「学校」と「イエロー隊」が協力し、日夜、子ども達を見守り、子ども達を地域の「宝」と子どもとして育てていました。

お昼にはお弁当にうどんのサービスがあり、私達もねばり強い腰の有る大人になり子育てしなければと思いました。

とても有意義で楽しい実の有る第1分科会でした。

第2分科会

家庭教育
副会長 栗原 洋子（山県 戸河内小学校）

第2分科会は、「家庭教育」と題し共育者「関西

京都今村組」最高顧問の今村克彦先生による『夢の見つけ方教えたる』というテーマで、基調講演が行われました。

『はじめは理由もクソもない、アカンもんはアカン』や、『くだらんしつけをくだらん時に言うな！』など、今村節が炸裂した笑いあり涙あり感動ありの講演会でした。今、世の中が非常に甘くなっている、荒れた親や子ども達に

どう取り込んでいくかが一番の課題であるとの事でした。

午後からのパネルディスカッションでは、子ども達が幸せを手に入れるために親としてどうしたら良いか等活発な議論が交わされました。

子育ても教育も、諦めたら終わりです。一生懸命に子どもを愛していきましょう。



第3分科会

学校教育
理事 松尾 浩司（府中 旭小学校）

第3分科会は、東京都三鷹市教育長の貝ノ瀬 滋氏による基調講演がございました。「地域に開かれた信頼される学校づくり」を目指し、今、学校は変わり始めています。との言葉から始まりました。

そして、学校はなぜ地域に開かれなければならないのか？と講師からの問いかけと、このことに対して、地域・社会の皆で子どもを育てることの重要性があるからと説明がございました。

次に「地域に開かれた学校づくりの展開」として三鷹市「夢育の学び舎」の実践例の発表がございました。実践例としてはコミニティーティーチャー（地域の方が先生になる）や学習アドバイザー（保護者が先生の補助を複数人数での教育）や課外授業として手芸・手話・英会話を行ったことなどの説明がございました。

このようなことから、いまある学校の力をより向上させることが出来るとも説明がございました。

次に学校はなぜ地域と協働しなければならないのか？では、子どもが輝き信頼される学校づくりには、子どもや学校を真ん中に置き、共に支え、共に信じ、共に励ましあいながら、共に生きる社会（共生社会）を考えることと説明がございました。

最後に、よりよい学校づくりー信頼される学校づくりーのために、そして、学校の説明責任を果たすために、PTAは何をすべきかとの説明がございました。

たくましく生きる子どもを育てるために、学校だけにまかせてはいけません。先生方に耳をかたむけ英知を結集し、共に

話し合うことの必要性。お手伝いをするような考え方はなく、PTA行事を自分自身の学びの場とし、子ども達と共に成長するように行事を行い、地域ぐるみで子どもを育てることが大切なことであると説明がございました。



私自身、今後のPTA活動では、個人の能力を向上し今後のPTA活動に役に立つ様に、そして立派なPTA人となるべく、更に前進し進化をとげるように、PTA活動を行いたいと考えます。

第4分科会

広報活動

会長 高橋 一昭 (三原 第五中学校)

第4分科会では、いまだきPTAの広報事情 読みたい、伝えたい、そして繋げたい「魅力ある広報づくり」をテーマに実践発表、実践教室、基調講演が行われました。

実践発表は、高松市立国分寺中学校PTAが発行している「めたせこいあ」というA2版の大変素晴らしいPTA広報誌を参考に実践発表をされました。広報誌作成に関する制作手順、広報紙へ掲載する内容検討など細かく実践発表を行っていたことができました。又、広報紙作りを通じて、感動を与えてくれる子どもたちの素晴らしい姿を多くの人たちに知ってもらおうと、これからも頑張ると言われておりました。実践教室は、四国新聞広報局ウイークリーメディア室オアシス編集長芳野裕子氏による「魅力ある広報紙づくりのポイント」と題して講演がありました。



りました。広報誌をだれに読ませるか、何を読ませるか、どう読ませるのか、どう読ませるのか等を頭の中にいれ企画を立てていく、読む相手を考えメイン企画・レギュラー企画などを考えていくと素晴らしい広報紙を作ることができるそうです。つまり、生活者の

目線で、周辺の話題に敏感であることが一番大事で、「読まれる媒体」「心にのこる記事」を目指してください。と結ばれました。

基調講演は、「大事MANブラザーズバンド元ボーカル立川俊之氏」のライブが講演かよくわかりませんでした。自分の歌などを披露しながら独自の子育て論や、学校との対応などを話されておりましたが、内容のよく分からない講演でした。3年後の講師選択は、慎重に行わなければならないことを痛感して会場をあとにしました。

第5分科会

地域連携

理事 元石 晴久 (庄原 口南小学校)

私が参加した分科会は、三木町文化交流プラザで開催された第5分科会の地域連携、「家庭・学校・地域の和！」子どもと共に育ち合い」と言うテーマで、まず基調講演で学校と地域の融合教育研究会副会長の岸裕司さんの講演で学校拠点に楽しく元気な生涯学習のまち育てという演題でスクールコミュニティについて実例を基に詳しく紹介されました。



実践発表は地元三木町立田中学校PTAの発表で、地域が好き、学校が好き、自分が好き、そんな子どもの育ちを応援して・というテーマで発表されました。

コミュニティースクールの導入により地域・学校・保護者の連携や学

校づくりに取り組む意識の変化などの実戦での成果を発表されました。家庭・学校・地域の連携が強く求められている今日、このようなコミュニティースクールの導入などは、今後私たちも考えていく必要があるのではないかと思います。会場を後にしました。

第6分科会

人権教育

理事 羽原 啓二 (福山 城東中学校)

第6分科会(人権教育)は、昭和六十三年開通した香川と岡山を結ぶ全長九、四km瀬戸大橋の四国側入り口、坂出市の瀬戸大橋記念公園内「マリンドーム」で開催されました。

基調講演は「オール1の落ちこぼれ、教師になる」の著者、愛知豊川高校教諭宮本延春先生が「未来のきみが待つ場所へ」という演題で、学校ではどうしようもない落ちこぼれが、地域社会の中で多くの事を学び育てられ、また認められ優しく接しられる中で、物理学に興味を持ち先生になるまでのご自身の体験談を話してくださいました。



午後からのパネルディスカッションは、『自分を大切に、他の人も大切に、他の人も大切に育てよう』というテーマで討議が行われました。子どもは自分が愛され大切に育てられているという実感を得られれば、その事が支えとなって他の人に対しても心を配る気持ちが出ていく。その

第56回日本PTA全国研究大会「かがわ讃岐路大会」分科会

為には子ども一人一人をかけがえのない存在として愛し、子どもの心をしっかりと受け止めてやれる親にならなくてはいけないと語られました。

我が身を振り返り、もっと大きな心で子どもたちを愛さなくてはと思いました。

この分科会場では、鴨川福神童太鼓を始め、盛りだくさんのアトラクションで歓迎してくださいました。また分科会場到着と同時に手荷物を預かって頂けるなど、優しい気配りがとても嬉しかったです。三年間に亘って立案・計画・運営に携わってこられた方々のご苦労に心より感謝と敬意を表します。

第7分科会

国際理解

母親代表 西山 美智子(尾道 美木中学校)



第7分科会は「国際理解」をテーマとし、平野キヤサリンさんを講師に迎えて基調講演が行われました。「地球は一つの国であり、人類はその市民である」来日するきっかけとなった言葉だそうです。日本についてまず、自分自身の偏見に気づき、日本人を理解する事が出来なかったとお話されました。率直な意見だと思えます。誰しも自分の国の文化や習慣が当たり前だと思っている。でも、他

国や相手の人を理解する為には偏見や無関心を無くし、まず自分を知る事の大切さを改めて考えさせられたよ

うな気がします。この事はPTAにおきかえても言える事ではないでしょうか？まず、自分の子ども・教育に関心を示し、地域にも関心を持つ事によって人と人は繋がりが、相手を理解し、差別や偏見の無い社会が築き上げられるのではないのでしょうか。今回、全国大会に参加出来た事に感謝致します。ありがとうございました。

第8分科会

健康安全

副会長 山本 和臣(廿日市 津田中学校)

中国産餃子の毒物混入から始まって、食物の産地偽装、最近では事故米の不正流通など今年だけでも食の安全に対する不安を掻き立てられるようなニュースが日々あふれています。こんな状況の中、私の参加した第8分科会の基調講演は「健康・安全の観点から運動と食事の重要性を考えよう」と言うものでした。



講演の内容は朝食の欠食から始まり「こ食」(孤食、粉食等)の問題、小児肥満の問題、具体的なお

として市販のスपोर्टドリンクとアスリート用のドリンクの違い(アスリート用には糖分は一切入っていない)など食の全般・多岐にわたる内容はとても興味深く関心の高いものでした。会場スタッフの方々はみんな

笑顔で、昼食のうどんもとても美味しく頂き、五重の塔を模したゆるキャラのきらりん君やうどんみこなど本場にさぬきらしい研修会を満喫させていただきました。スタッフの皆様、ありがとうございました。

特別第1分科会

日本PTA担当

理事 八木 明美(廿日市 廿日市中学校)

インターネットホットラインセンター副代表の吉川誠司氏の講演は、かなり具体的にリアルなケイタイ問題を提起して話されました。

「家族と食事中にメールがきたらどうしますか？」との問いに、ドキッとしました。すぐ開けて見るのか？それとも食事のあとにするのか？みんなが困惑していると、吉川氏は「大人は仕事や緊急連絡などある場合があるので、やむを得ずメールのやりとりをすることもあることを家族にわかってもらう必要があるんですよ。」

子どもには、「行儀が悪い」とか「食事中にメールはダメ」とか注意するのに、大人は、勝手だなあ〜と思われがちですね。

また、中・高生(特に女子)はメール依存症になったり、仲間はすれにされないための手段として携帯電話を手放せずに持っているという現実を知りました。親は、子どもの安全を守るために、居場所がわかるケイタイを持たせているが、実際、犯罪につながるサイトやブログにアクセスする子どもも少なくないそうです。おこづかいを稼ぐために、自分の〇〇を写メールで送信し、(後に詐欺と認識)とつかえしのつかないつらい思いをしている子どもの事例を見た時、涙があふれて、体がふるえました。その子は、友人にも親にも言えず、ただただ後悔しているそうです。

フィルタリングの重要性と、ホワイトリスト方式、ブラックリスト方式の必要性を教えてくださいました。

日常生活の必需品である携帯電話は使用方法をよく考えプラスとマイナスの情報をよくつかむこと!!と自分に言い聞かせました。皆さまもお気をつけください。



特別第2分科会

文部科学省担当

会計 近藤 忠久(三次 八次小学校)

日本PTA全国研究大会は昨年に続き二度目の参加となる。今年はバス3台を連ね総勢70名を超える人数での参加。平成23年に行われる広島大会を見据えてのことである。早い方は早朝5時にバスに乗り込んだ。順調にバスは目的地の香川に向かう。各分科会会場に立ち寄り、下車する面々は真剣そのものである。

私が参加した分科会は特別第2分科会で「子どもと言葉と読書」をテーマにされた分科会であった。客席の最前列と二列目に広島勢は陣取り、一瞬でも見逃すまいとする姿勢である。記念講演では東北大学教授の川島先生による「読書で脳を活性化する」という演題であった。「人は思考するとき言語で考える。国語も算数も言語力がなければ理解できない。

い。そのために読書で脳を活性化しなければならぬ。」という大筋であった。実例を交え非常にわかりやすいお話に感銘を受け、次なるプログラム、パネルディスカッションに進む。パネラーの発言の中で特に興味を引いたのが茅野市・読書の森 読りーむinちの副会長 本間氏の取り組みであった。本を読む習慣を育てるため、新たな視点で取り組み、行政と協力し、生まれた赤ちゃんが新生児検診のときに、母親にプレゼントする絵本「ファーストブック」そして就学前検診で送る「セカンドブック」など推薦する絵本を無理なくすべての子どもに提供するアイデア・行動力に感心した。

そして最後の講演では落語家 桂 文我氏の落語の歴史から言葉の面白さ、日本語の素晴らしさを再認識できた有意義な分科会であった。

緊張の中にも暖かいものを心に残し分科会会場を後にしバスで今夜の宿に向かう。ホテルに到着するや否や夕食時間が30分後に迫り、せっかくの温泉地にもかかわらず風呂を楽しむまもなく夕食会場へ足を運ぶ。さすがに70名を超える懇親会は大広間一面に広がり壮観である。前列に並んだ県P役員の進行、高橋会長の挨拶で懇親会は幕を開けた。最初は各郡市P連で固ま



っていたが、そこは同じ目的をもったPTA会員である。すぐに打ち解け席を移り互いに杯を交し合い情報を交換する場となった。夜もふけ翌日の全体会のため二日酔いにならない程度で部屋に帰る。

さわやかに朝を迎えいよいよ全体

会に向かう。国歌斉唱に続き日P曾我会長の挨拶、御来賓の祝辞を賜り大会宣言。肅々と式典は進み記念講演に移る。

講演は作家 内館牧子氏による「角界の新弟子における規範意識」と題する演目である。

講演のほとんどは角界のことより現在の社会における問題であった。給食費未納問題、モンスターペアレントといわれるクレイマーなど、根底にあるのは何なのか。大人・保護者が規範意識をもたなければ子どもによい影響は与えられないし、自己中心であることが規範意識の欠落をもたらすのだと痛感。2時間近い講演であったが瞬く間に時間は過ぎていた。大会のすべてが終了し程よい疲れと感動を残し有意義な二日間が終了した。

平成23年には広島大会が開催されるが全国のPTA会員の仲間に感動を共有できる大会を祈念し平成20年第56回日本PTA全国研究大会香川大会の参加報告とさせていただきます。

みんなの力で成功させよう!

第59回 日本PTA 全国研究大会 ひろしま大会(仮称)

- 平成23年8月26日(金)・27日(土) 開催決定!!
- 全国大会まであと1036日!



平成20年度 全小・中学校PTA会長研修会を終えて

研修1 榎田好一広島県教育委員会教育長の講演について
(回収枚数 242枚)

大変良く 分かった	良く 分かった	どちらでも ない	良く分から なかった	未回答
55	133	36	8	10
22.7%	55.0%	14.9%	3.3%	4.1%

代表的なご意見

- ・とても貴重な講演で、参考になった。
- ・是正指導の内容や教育委員会のビジョンが見えた。直接話を聞いてより理解できた。
- ・時間が無く、中途半端で残念で。ポイントをもっと絞って話してほしい。
- ・ホームページなどで今回の資料の公開をしてほしい。他多数

研修2 連石武則前広島県PTA連合会長の基調講演について
(回収枚数 276枚)

大変参考に なった	参考に なった	どちらでも ない	参考になら なかった	未回答
131	96	36	8	5
47.5%	34.8%	13.0%	2.9%	1.8%

代表的なご意見

- ・大先輩のご意見をたくさんお聞きでき、感動した。情熱が伝わった。
- ・経験に基づく講演だったので大変参考になった。当たり前のことをい続ける必要性を感じた。
- ・地域・学校・PTAのかかわりが必要だと感じた。自分の行動不足を感じた。
- ・理想論的な部分があり、いいことだとは分かっているけど難しい面がある。他多数

研修3 グループディスカッションについて
(回収枚数 242枚)

大変参考に なった	参考に なった	どちらでも ない	参考になら なかった	未回答
83	124	15	1	19
34.3%	51.2%	6.2%	0.4%	7.9%

代表的なご意見

- ・共通の問題点が聞けた。とても参考になった。
- ・大規模校・小規模校で抱えている問題は違うが、会長が先頭に立たなければならないと確信した。
- ・他グループの雑音のために聞き取りにくかった。グループ・人数が多すぎでは？
- ・もう少しテーマを絞ってほしい。時間が足りなかった。他多数

来年度の全小・中学校PTA会長研修会の内容について
講演テーマについて (複数回答) (回収枚数 265枚)

学校教育	家庭教育	地域教育	その他	未回答
42	117	54	13	39
15.8%	44.2%	20.4%	4.9%	14.7%

代表的なご意見

- ・やはり基本は家庭である、PTAとして地域行事のかかわり方の事例、学力・学ぶ力とは
- ・PTA行事について、先生をもっと生き生きさせるには、人権教育、いじめに関すること
- ・いわゆる「モンスターペアレンツ」について、今年のテーマをもっと掘り下げて。他多数

今回の会長研修会は無事に私の地元、廿日市市で終える事ができ、まずは「一安心」ほっとしています。
また、来賓、講師の方をはじめ、お集まりいただいた多くの皆様に感謝をいたします。
今回のご講演をはじめ、皆様から頂いたご意見・ご感想を来年度の会長研修会に生かすべくしっかりと引き継いで行きたいと思っています。もちろん心もつなげて・・・(笑)

広島県PTA連合会 副会長 山本 和臣

第六回 全小・中学校PTA 母親代表研修会のご案内

日時 平成二十年十二月六日(土)
午前十時より午後三時まで(予定)

テーマ “子どもの道徳教育から感じ取ること”
“わかつていくけど、ついていってしまうことありませんか?”

場所 本郷生涯学習センター
三原市本郷町本郷1069番地4

内容 講演会 模擬授業・グループ討議

ご挨拶が遅くなりました。今年度県P連母親代表をさせて頂いております。尾道市P連の西山 美智子です。

県P連母親委員会は子どもの健全育成のために、子どものもっとも身近な存在である「母親の心の視点」から子育てについて語り合う事や、その時々に必要なと思われる事を研修する事を目的に活動しております。

七月二日には第一回母親委員会を行い、今年度の活動方針・事業等について確認しました。

九月二十六日には第二回母親委員会を行い、全小・中学校PTA母親代表研修会に向けての内容等を協議し、研修会に参加して頂いた母親の皆さんに満足していただけるよう取り組みを進めております。近年、親の規範意識の低下が問題視されておりますが、今、親として何をすべきか、何を教えるべきかを、皆さんと共に考えていけたらと思います。至らぬ点が多々ありますが、どうぞ、宜しくお願い致します。



おめでとうございます

広島県PTA連合会 小・中学校PTA広報紙コンクールにおいて、優秀賞として小学校6校、中学校4校、会長特別賞として小学校2校が受賞されました。このうち、優秀賞については、第30回全国小・中学校PTA広報紙コンクール第一次審査通過作品として、社団法人日本PTA全国協議会に送付したところ、次のような結果になりました。

小・中別	受賞学校PTA名	広報紙名	第30回全国 小・中学校PTA 広報紙コンクール	広島県PTA連合会 小・中学校PTA 広報紙コンクール
小学校 PTAの部	福山市立箕島小学校PTA	あいどる	奨励賞	優秀賞
	福山市立本郷小学校PTA	ほんごう		
	三原市立中之町小学校PTA	まど		
	福山市立高島小学校PTA	たかしま		
	福山市立宜山小学校PTA	むべやま		
	庄原市立東小学校PTA	ぎおんの森		
中学校 PTAの部	尾道市立向東中学校PTA	地の塩		
	廿日市市立阿品台中学校PTA	白亜		
	神石郡神石高原町立 三和中学校PTA	三和中 PTA新聞		
	福山市立神辺西中学校PTA	若竹		
	府中市立広谷小学校PTA	ひろたに		会長特別賞
	大竹市立松ヶ原小学校PTA	松魂		



連日の猛暑、また
北京オリンピックの
開催と今年の夏は
例年に比べ暑い夏で
あった。その熱さ
の中で、ヒロシマ
は六十三年度の夏
を迎えた。今年の八月六日の広島
の平和記念式典には、最多となる
五十五ヶ国の大使らが参列し、
又この9月、核保有国である米ロ
仏英をはじめ立法のトップが広島
で一堂に会しての「G8下院議長
会議」が開催され、NPT（核拡
散防止条約）の堅持など、平和と
軍縮に向けた討議が真摯に行われ
たと聞く。

ヒロシマの悲惨さを二度と繰り返さないために今求められているのは、「核兵器と人類は共存できない」との旗印を、万人が持っている偉大なエネルギーを基に、人類の幸福のために、万波と広げゆくことではないかと思う。

「G8下院議長会議に」寄せられた「僕らの提言」として紹介された、広島での「子どもサミット」の開催も希望を与えてくれる。大切なのは、一過性ではなく広島に住む私たちがヒロシマの心を心とし、核廃絶への思いを発信し続けることである。

命が最も大切だ。核兵器はいらない。この素朴な庶民の叫びが、連日報道される子どもたちに関わる悲惨な事件、事故を少しでも少なくしていけるように思える。

(清)

広報委員紹介

榎 大介（呉市）
西山美智子（尾道市）
八木 明美（廿日市市）
大和多 徹（東広島市）
黒瀬 照美（安全高田市）
国兼 利美（世羅郡）
北川 美幸（府中市）
元石 晴久（庄原市）

編集後記

No.26の紙面は楽しんでいただけましたか？

「県Pだより」を作成するにあたり、あらゆる情報にアンテナを広げながら、広報委員会メンバーは獅子奮迅いたしました。

暑い夏には、熱い熱い北京オリンピックが開催され、皆さんそれぞれに興奮し、応援されたことと思います。

日本代表選手はブレッシャーにも打ち勝ち、見事な成績を残した人もいましたね。

選手達の育った環境や親の一本すじのおつた、凛とした姿に胸がじいんとしました。

私たちもぜひ見習って常に子ども達の良き理解者であり、サポーターでありたいと思います。

家族、学校、地域が集い語り合い、認めあつて一喜一憂しながら、ともに成長していきたいと強く願いながら県Pだよりをお届けいたします。

広島県PTA連合会

理事 八木 明美

充実の補償で お子様を サポートします

●誤って他人のものを
壊したり、他人にケガを
させてしまったら…
(加害事故の補償)

インターンシップ（職場体験）や
アルバイトに起因する賠償責任も
対象となります。

●授業中やクラブ活
動など、校内外を問
わず発生するケガや
病気*の補償

*病気入院補償
はWプランのみ
対象です。



団体割引適用で 割安な保険料！

(注)動産総合保険(携行品一式特約
付帯)には、団体割引による割引は適
用しません。
スクールメディカルデスク24でお子
様の健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・
身の回り品などの補償
●育英費用等

充実の補償でお子様をサポートします。

広島県PTA連合会 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険・動産総合保険(携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保)のペットネームです。
この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容は平成20年度のパンフ
レットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。

詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険
会社までお問合せください。

平成20年9月作成 募文No 4140-08-032



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問い合わせ先・取扱代理店：(株)東海日動パートナーズ広島 TEL：0120-018-217



ニッセイ同和損害保険株式会社



三井住友海上火災保険株式会社